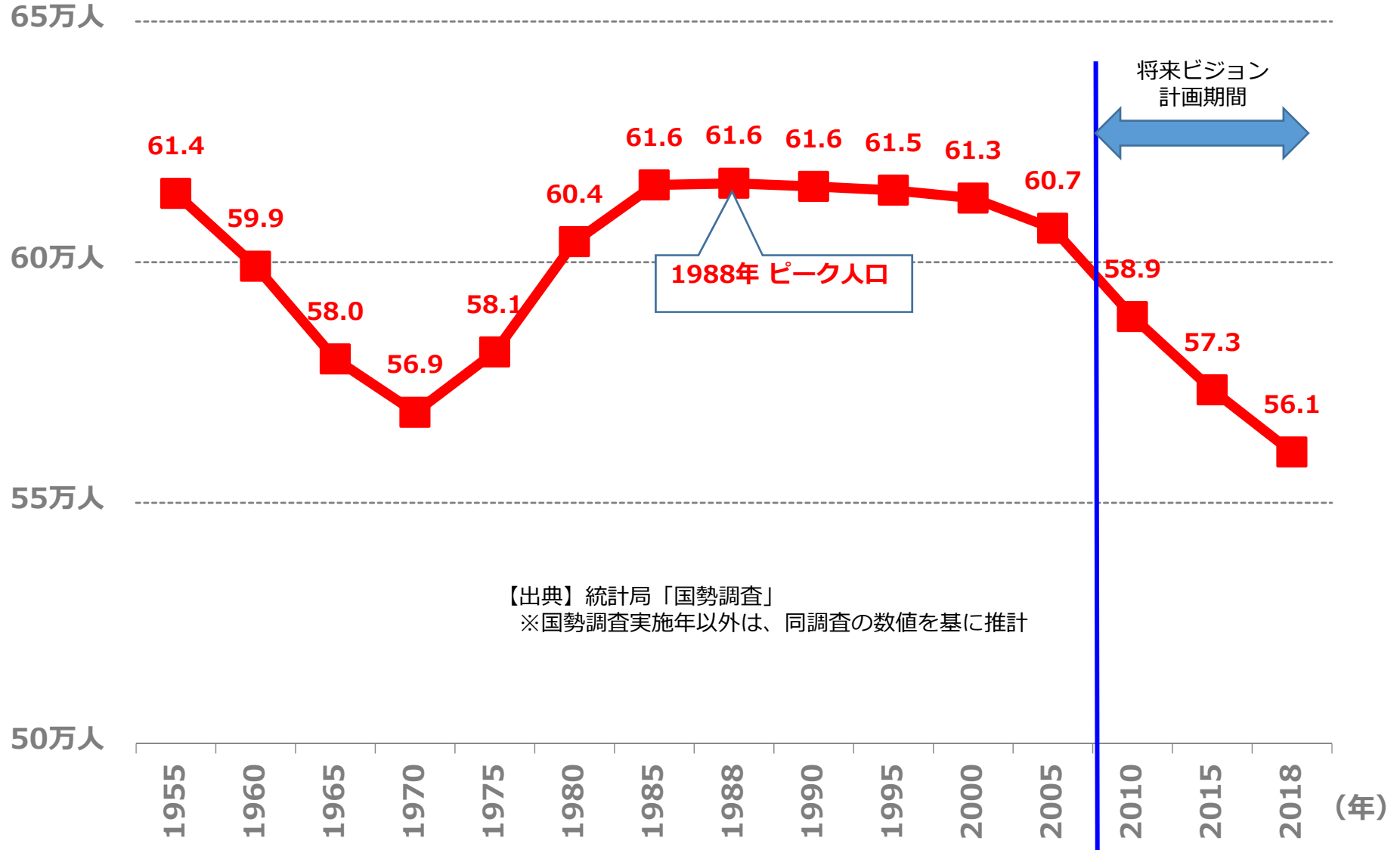


将来ビジョンパブリックコメント参考資料

「鳥取県の将来ビジョン」 策定時と現在の状況

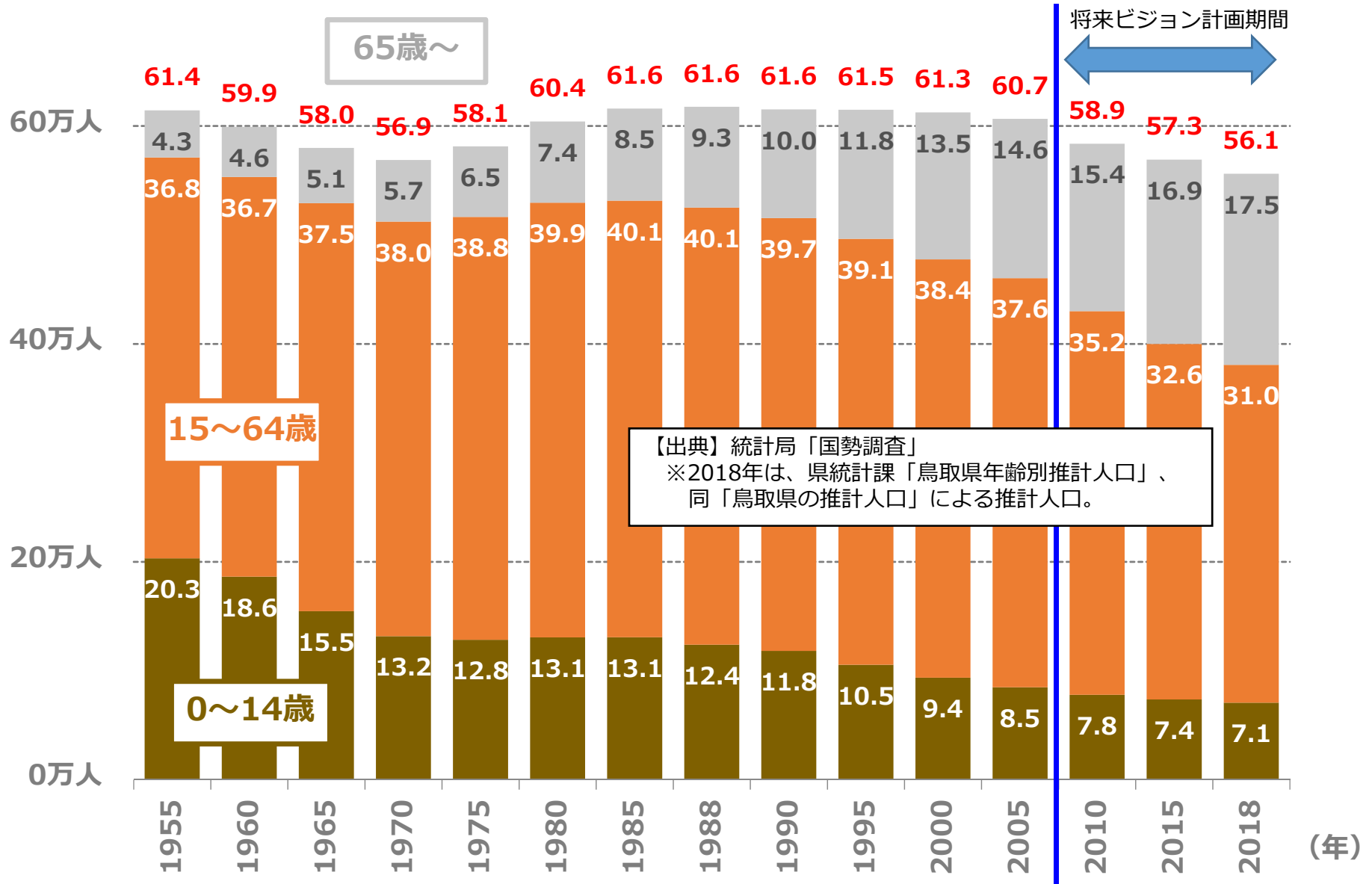
県人口の長期推移

県人口は1988年（S63）年に過去最高を記録しましたが、その後は減少が続いています。



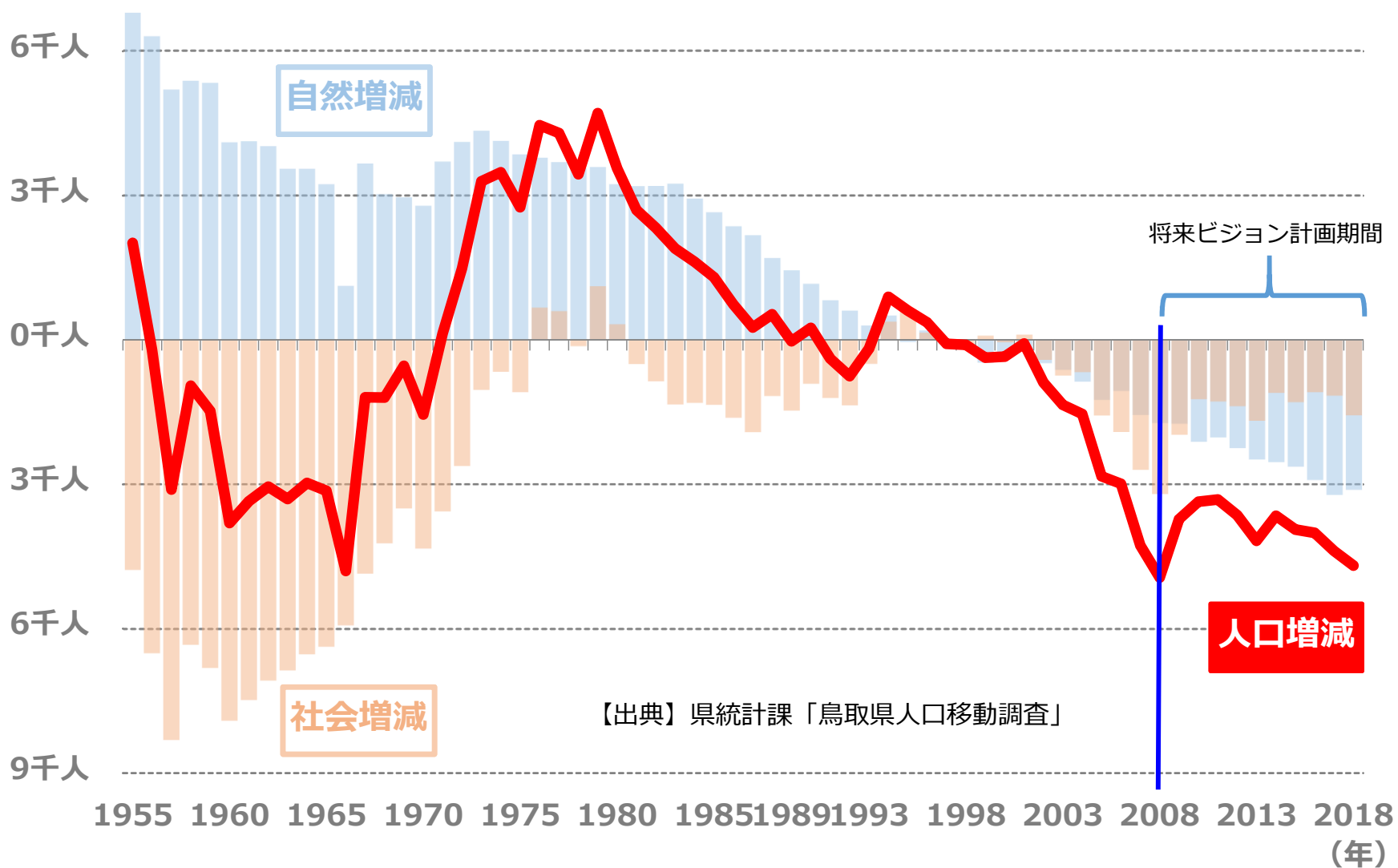
県人口の長期推移：年齢3区分別

ピーク時（1988（S63）年）に比べ、年少人口（0～14歳）と生産年齢人口（15～64歳）は減少している一方、老年人口（65歳以上）は年々増加しています。



県の人口動態の長期推移

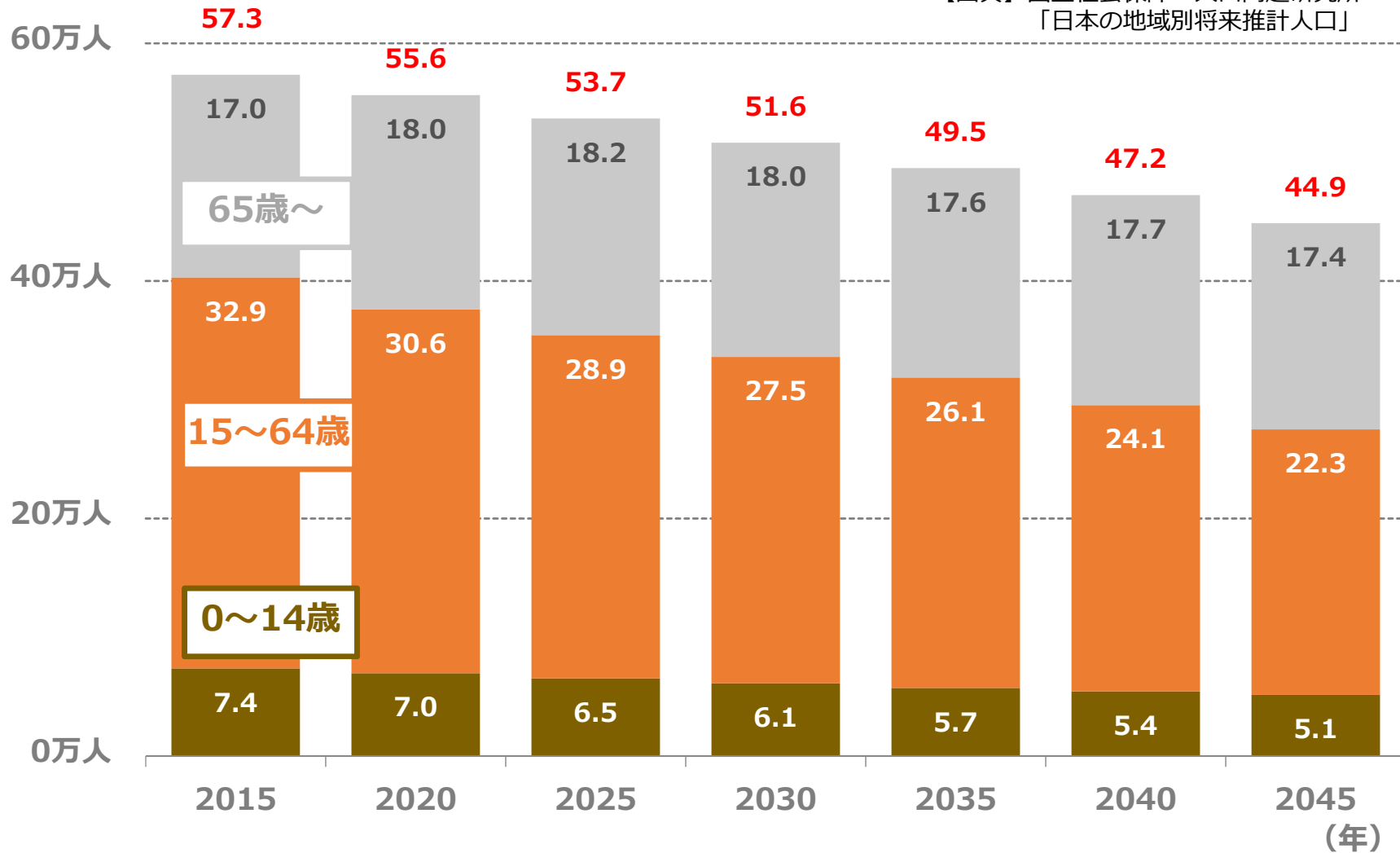
2002（H14）年以降、自然動態・社会動態ともにマイナスの状況が続いていますが、2008（H20）年以降は転出超過傾向が下げ止まりをみせています。



将来推計人口推移

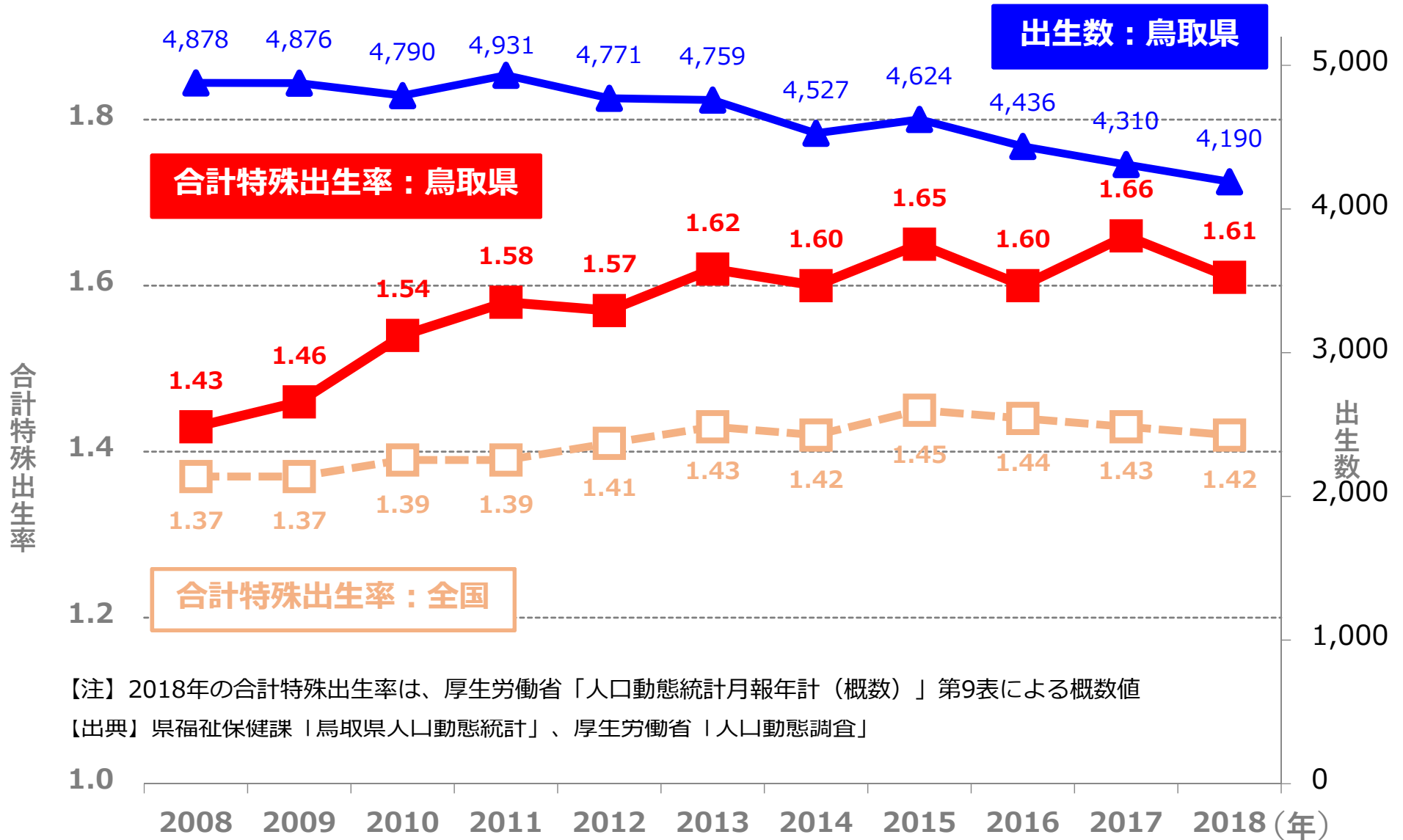
今後、老年人口は2025年にピークを迎え、2045（R27）年には従属人口（年少人口と老年人口の合計）と生産年齢人口がほぼ同程度になるという推計が出ています。

【出典】 国立社会保障・人口問題研究所
「日本の地域別将来推計人口」



合計特殊出生率と出生数の推移

出生数は2011（H23）年以降減少傾向にありますが、合計特殊出生率は全国に比べ、高水準を維持しています。

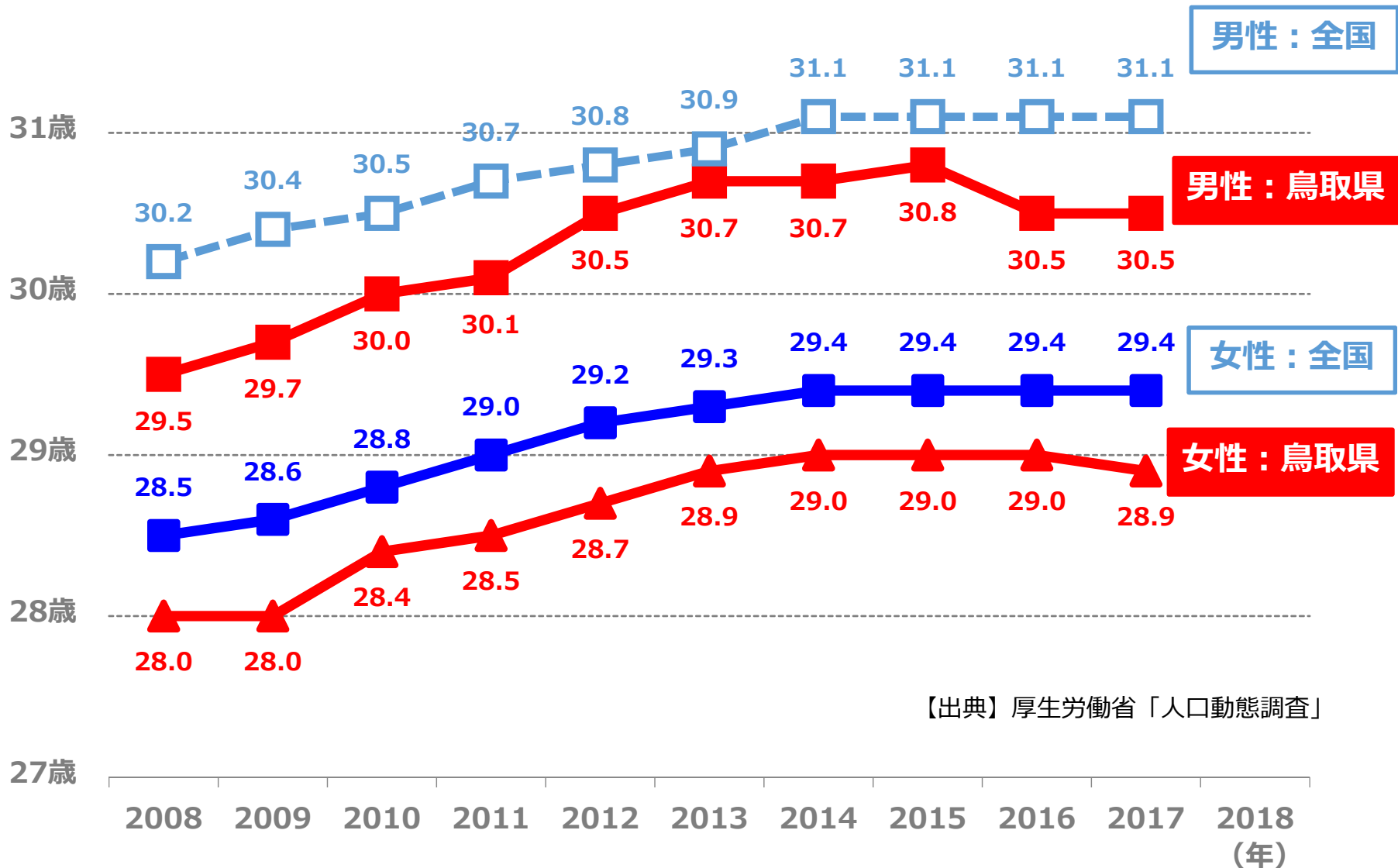


【注】2018年の合計特殊出生率は、厚生労働省「人口動態統計月報年計（概数）」第9表による概数値

【出典】県福祉保健課「鳥取県人口動態統計」、厚生労働省「人口動態調査」

平均初婚年齢の推移：男性・女性

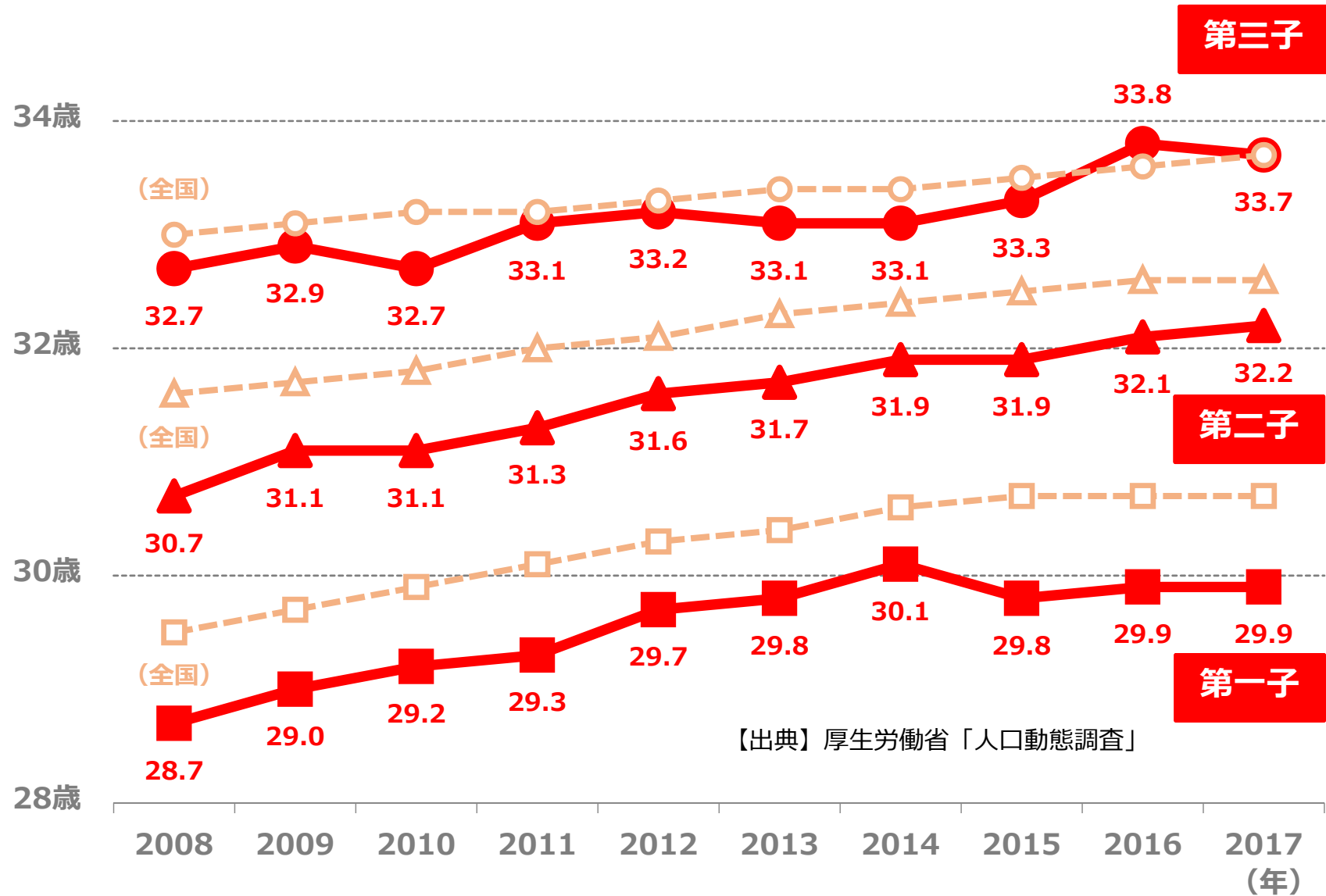
男性・女性ともに年々晩婚化が進んできているものの、いずれも全国平均よりも低い状態を維持しています。



【出典】厚生労働省「人口動態調査」

平均出産年齢の推移

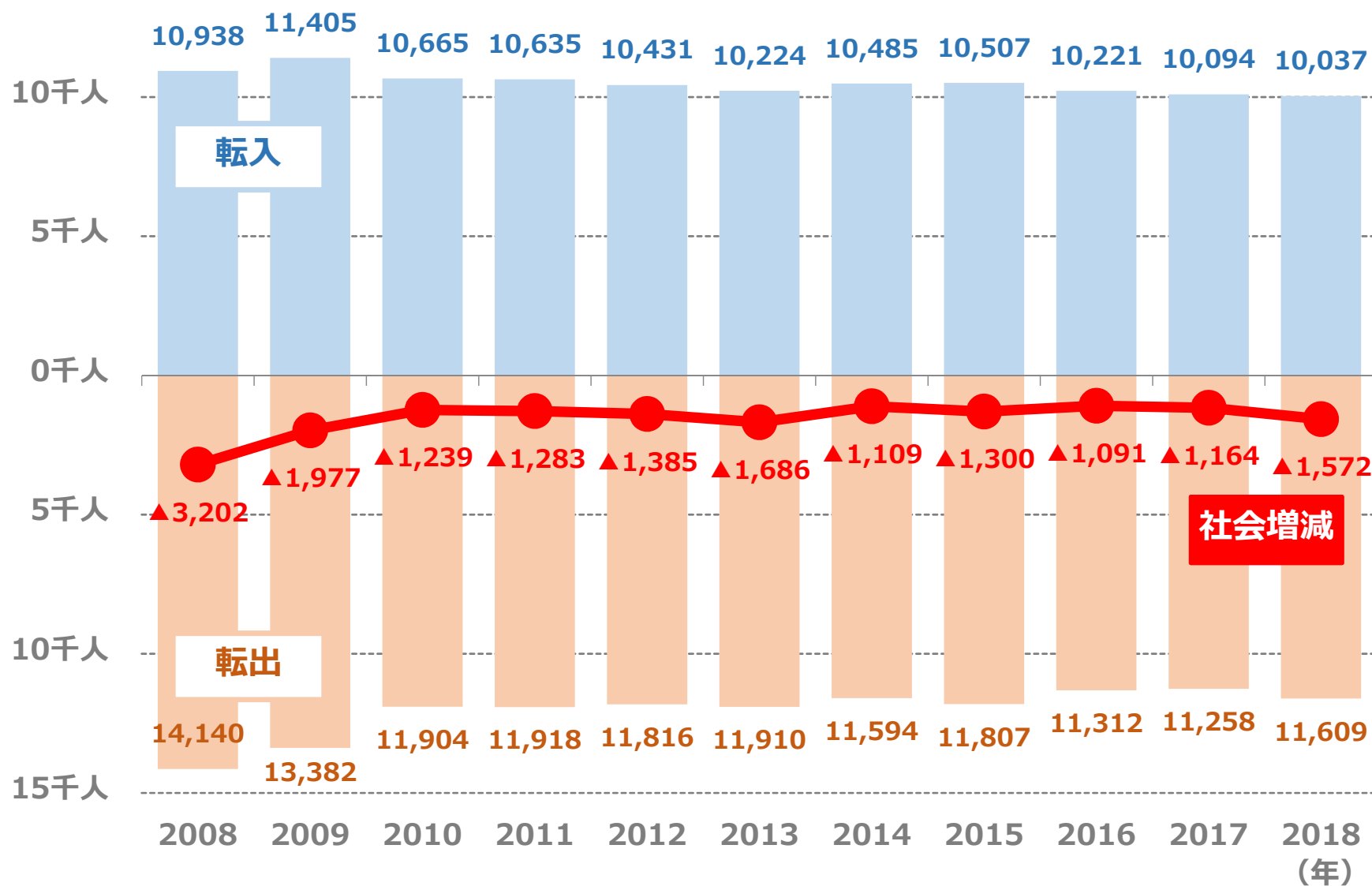
平均出産年齢は年々上昇傾向にあるものの、第一子と第二子の平均出産年齢は全国平均よりも低い状況にあります。



【出典】厚生労働省「人口動態調査」

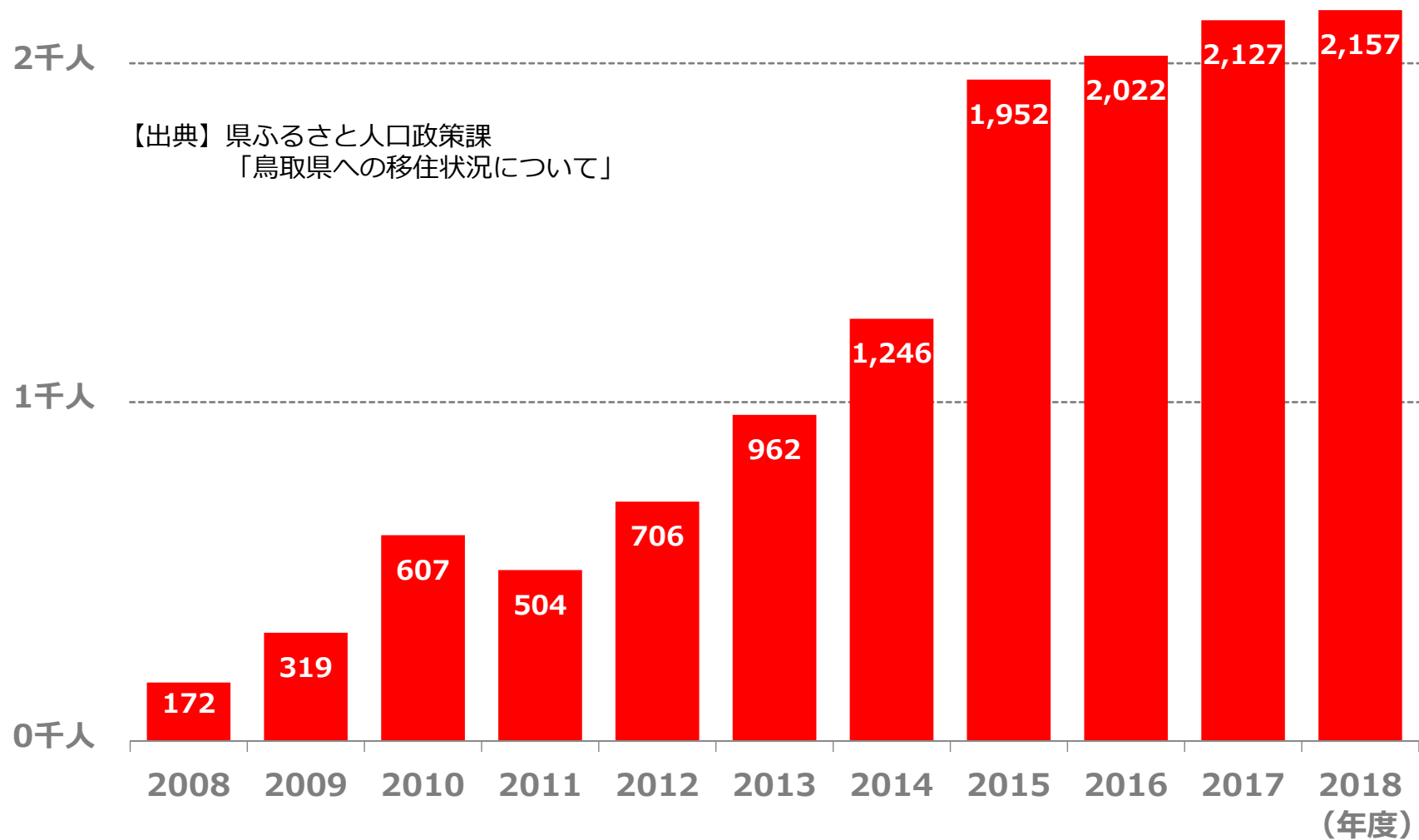
県人口の社会動態の推移

2008（H20）年から、転入・転出数はそれぞれほぼ横ばいですが、社会減が続いている状況です。



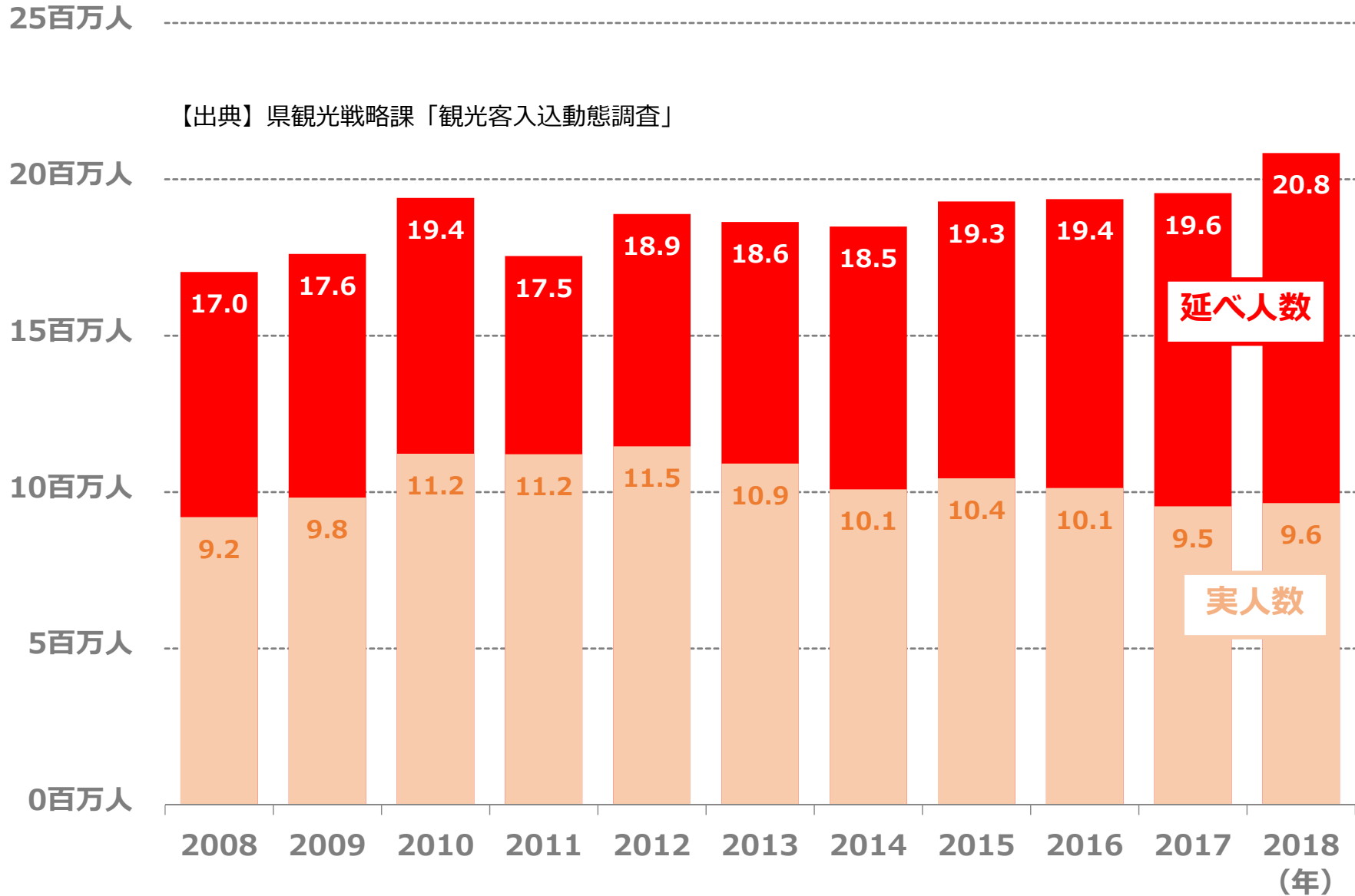
移住者数の推移

移住者は年々増加傾向にあり、2008（H20）年度と比べると、約12倍の移住者数となっています。



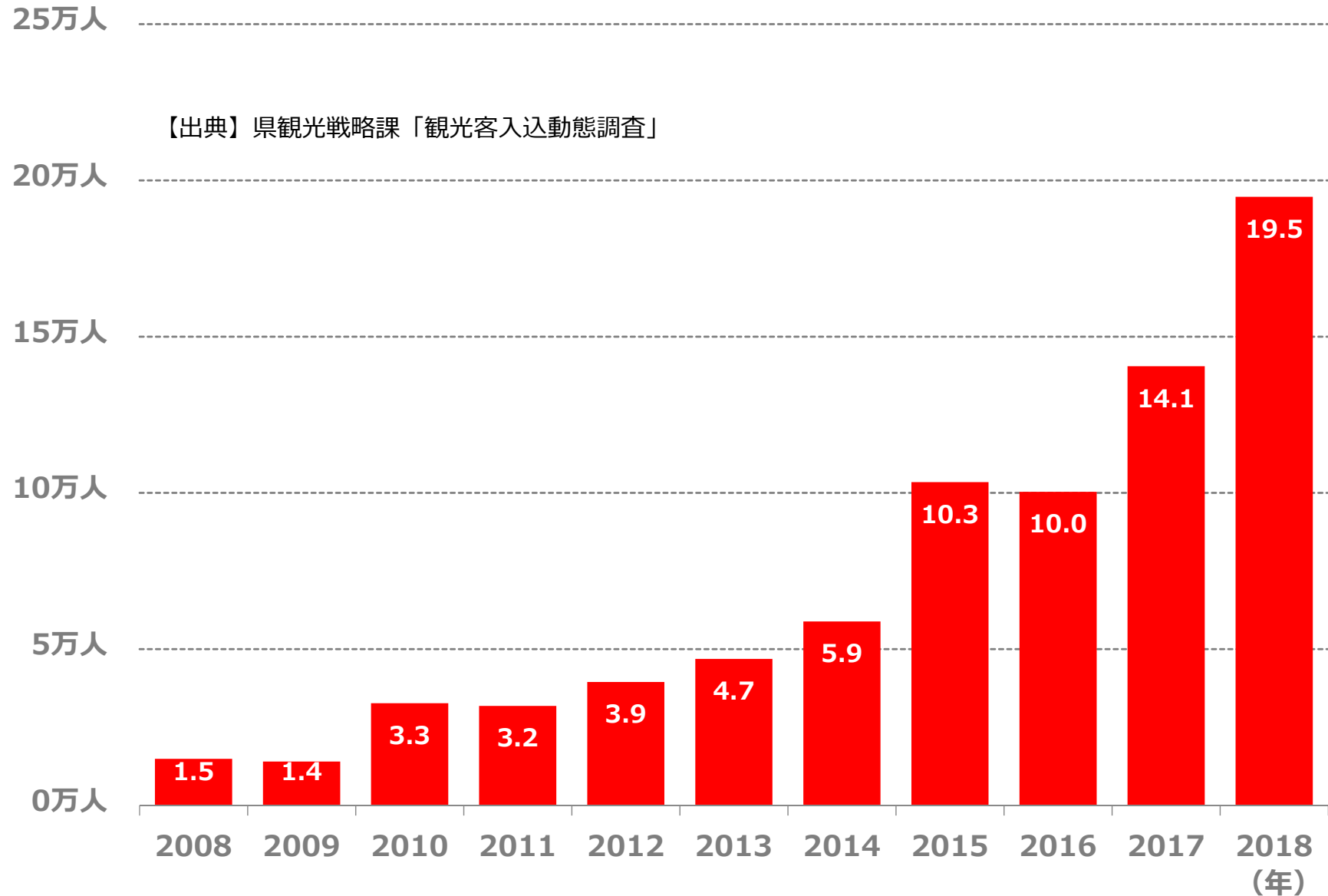
観光入込客数の推移

延べ人数は2008（H20）年以降着実に増加している一方、実人数はほぼ横ばいの状況にあります。



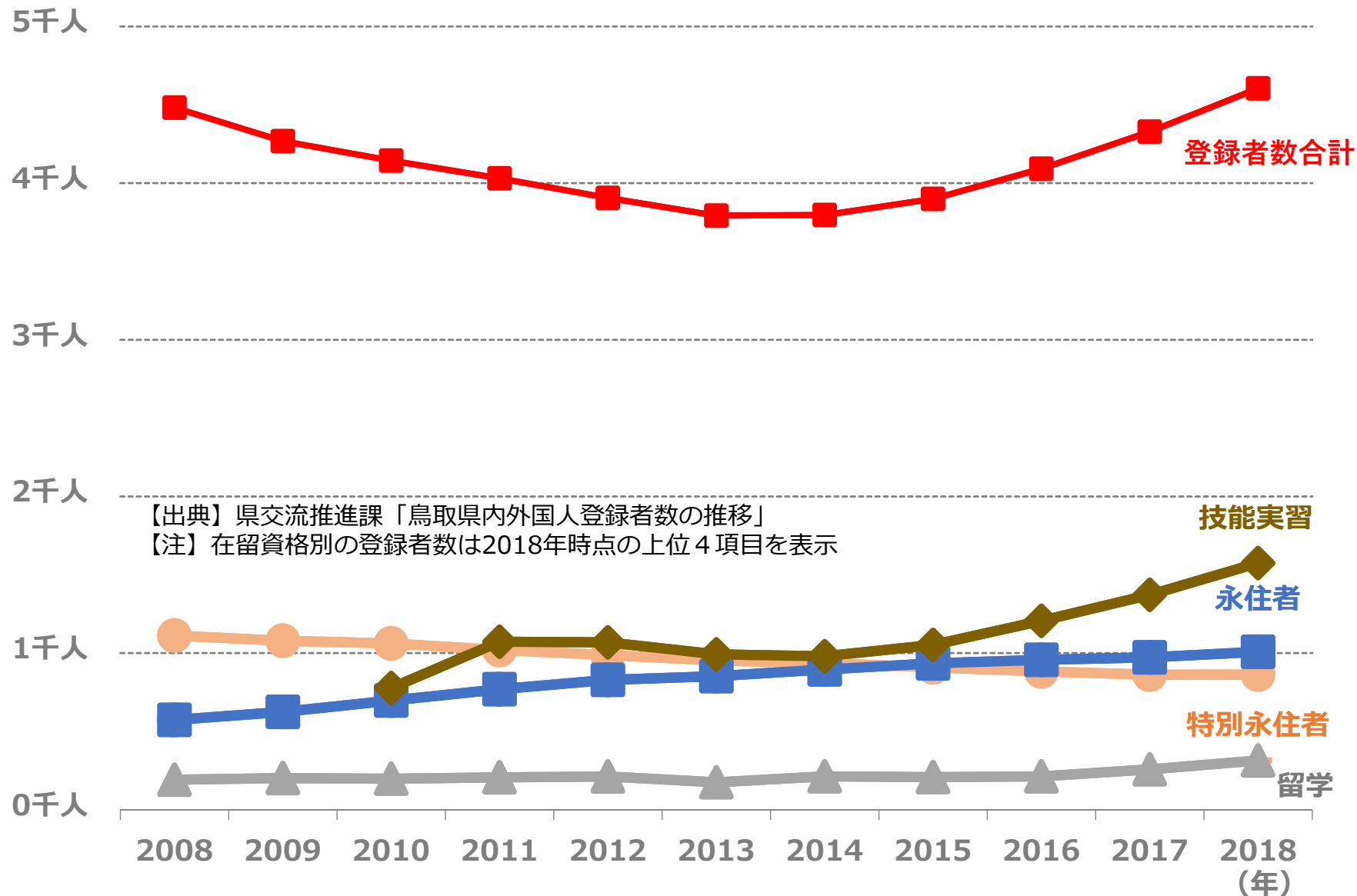
外国人延べ宿泊者数の推移

2008（H20）年以降着実に増加を続け、2018（H30）年は過去最高を記録しています。



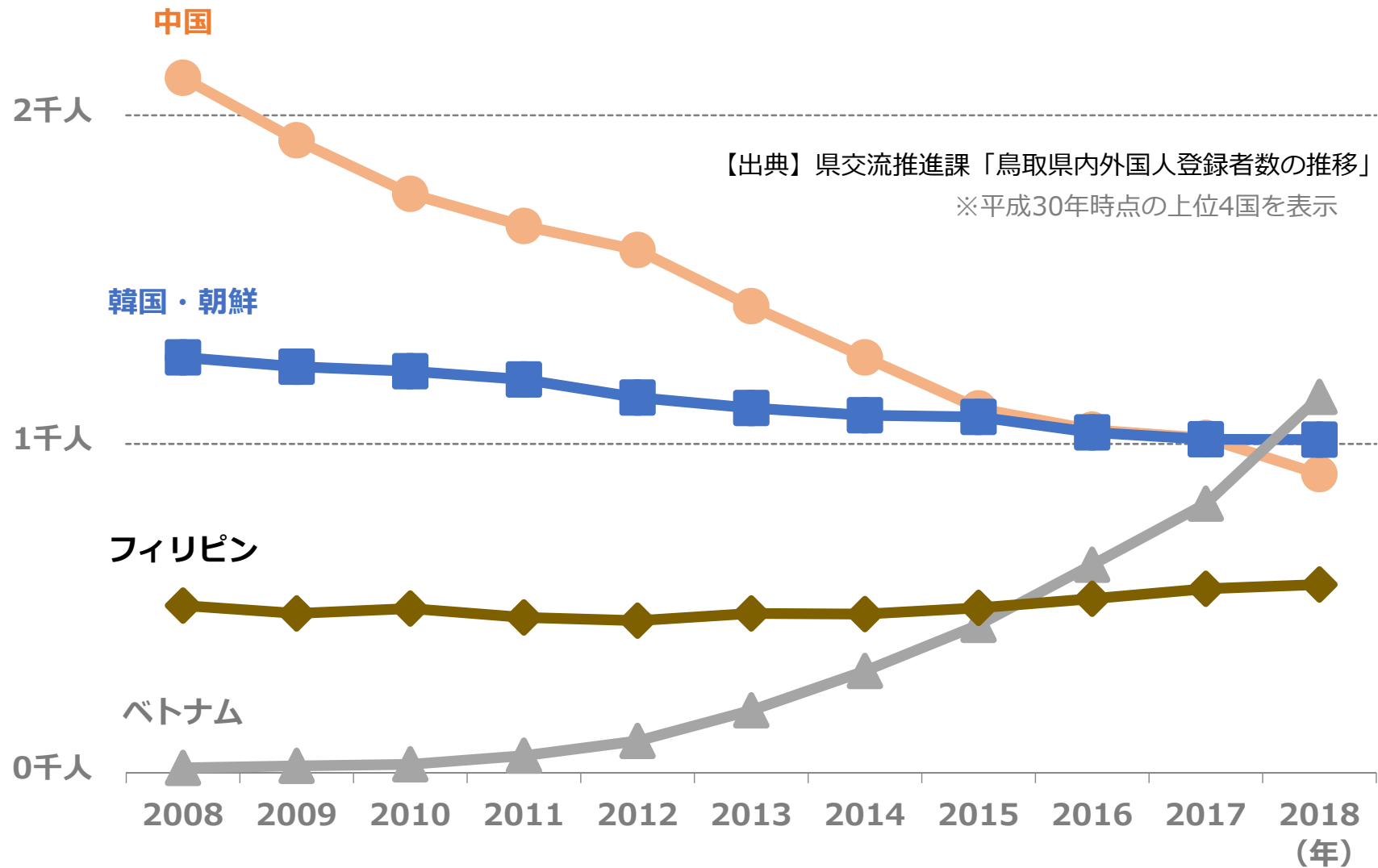
外国人登録者数の推移：登録者数・在留資格別

2014（H26）年頃から技能実習生が増加していることに伴い、登録者数の合計も増加傾向にあります。



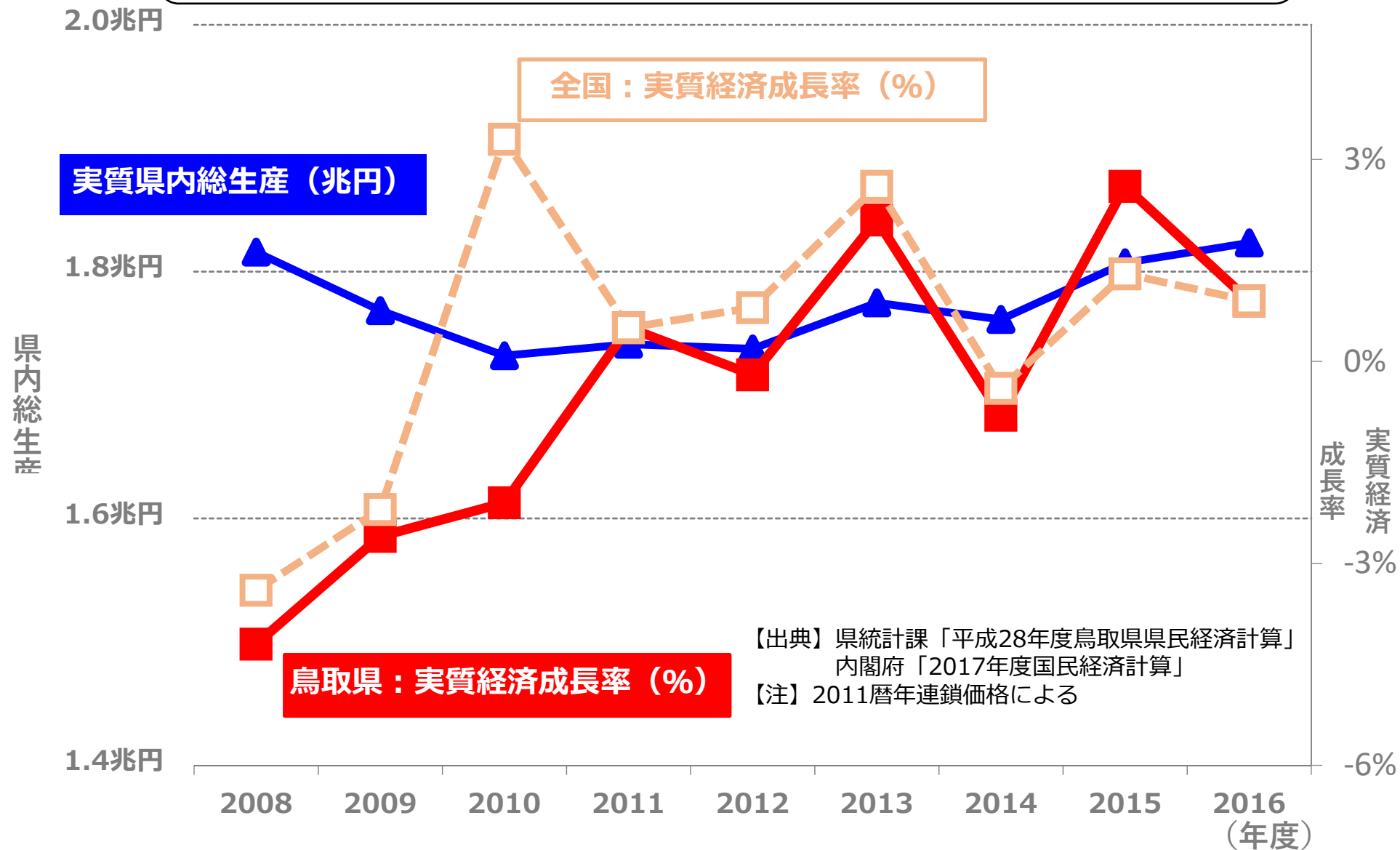
外国人登録者数の推移：国籍別

2008（H20）年以降、中国人の登録者が減少傾向にある一方、ベトナム人の登録者数が伸びています。



実質県内総生産・実質経済成長率の推移

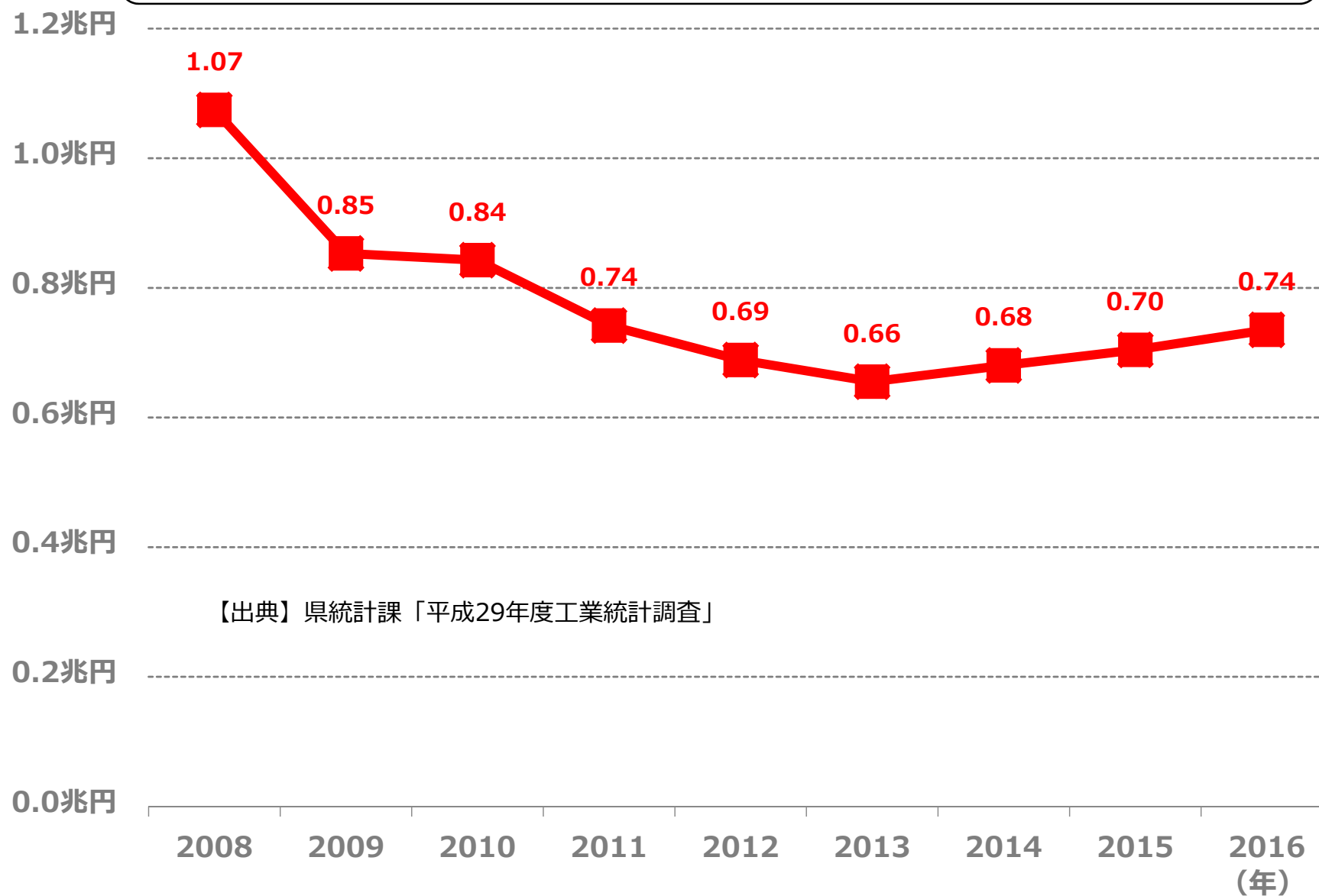
実質県内総生産は2010（H22）年度頃に落ち込みましたが、2016（H28）年度には2008（H20）年度のレベルまで回復しました。実質経済成長率は、2010（H22）年度頃までは全国平均より低いものの、その後は全国平均と同水準を維持しています。



【出典】 県統計課「平成28年度鳥取県県民経済計算」
内閣府「2017年度国民経済計算」
【注】 2011暦年連鎖価格による

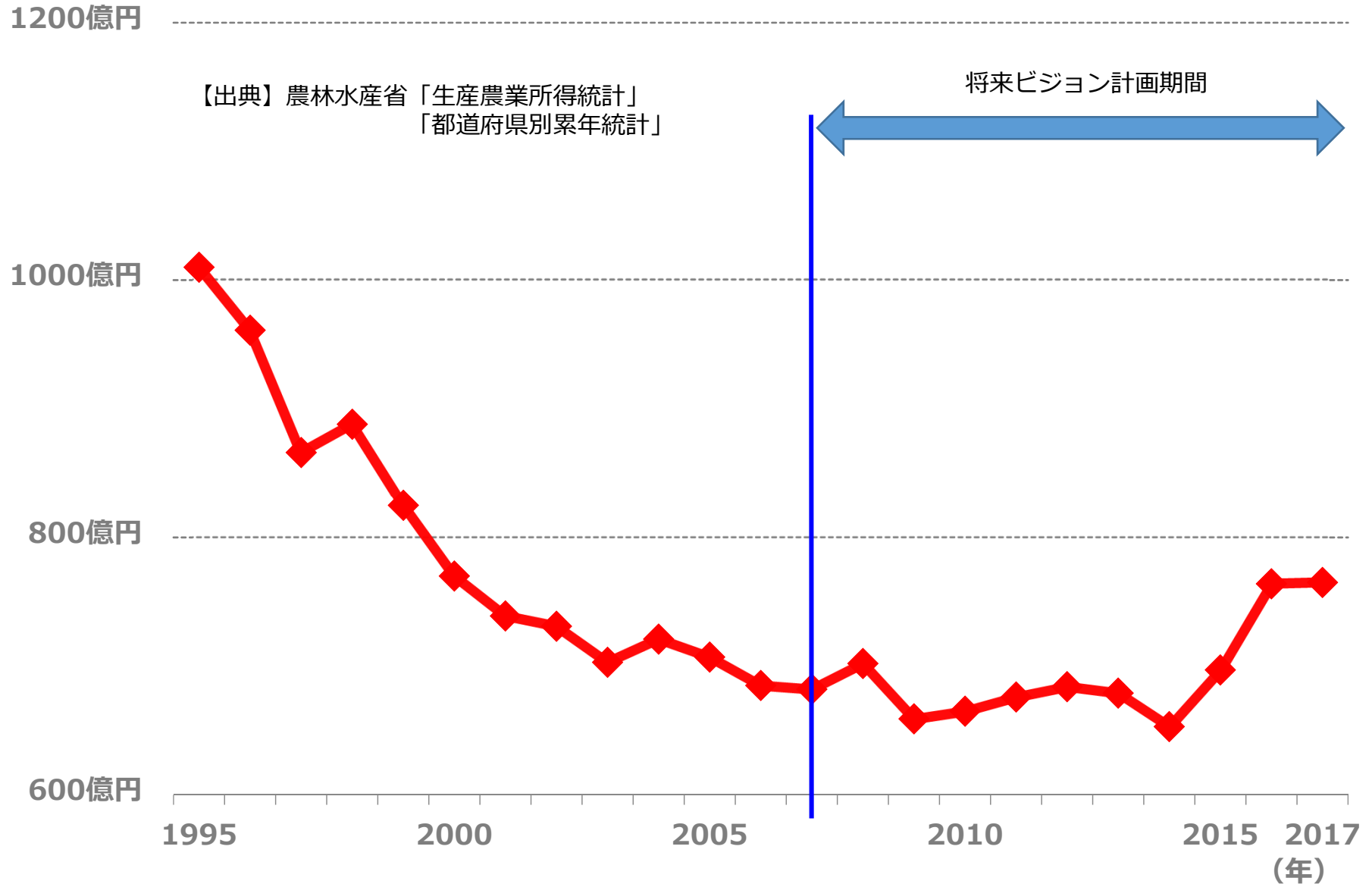
製造品出荷額の推移

2013（H25）年まで減少したものの、その後は徐々に回復しており、3年連続で増加しています。



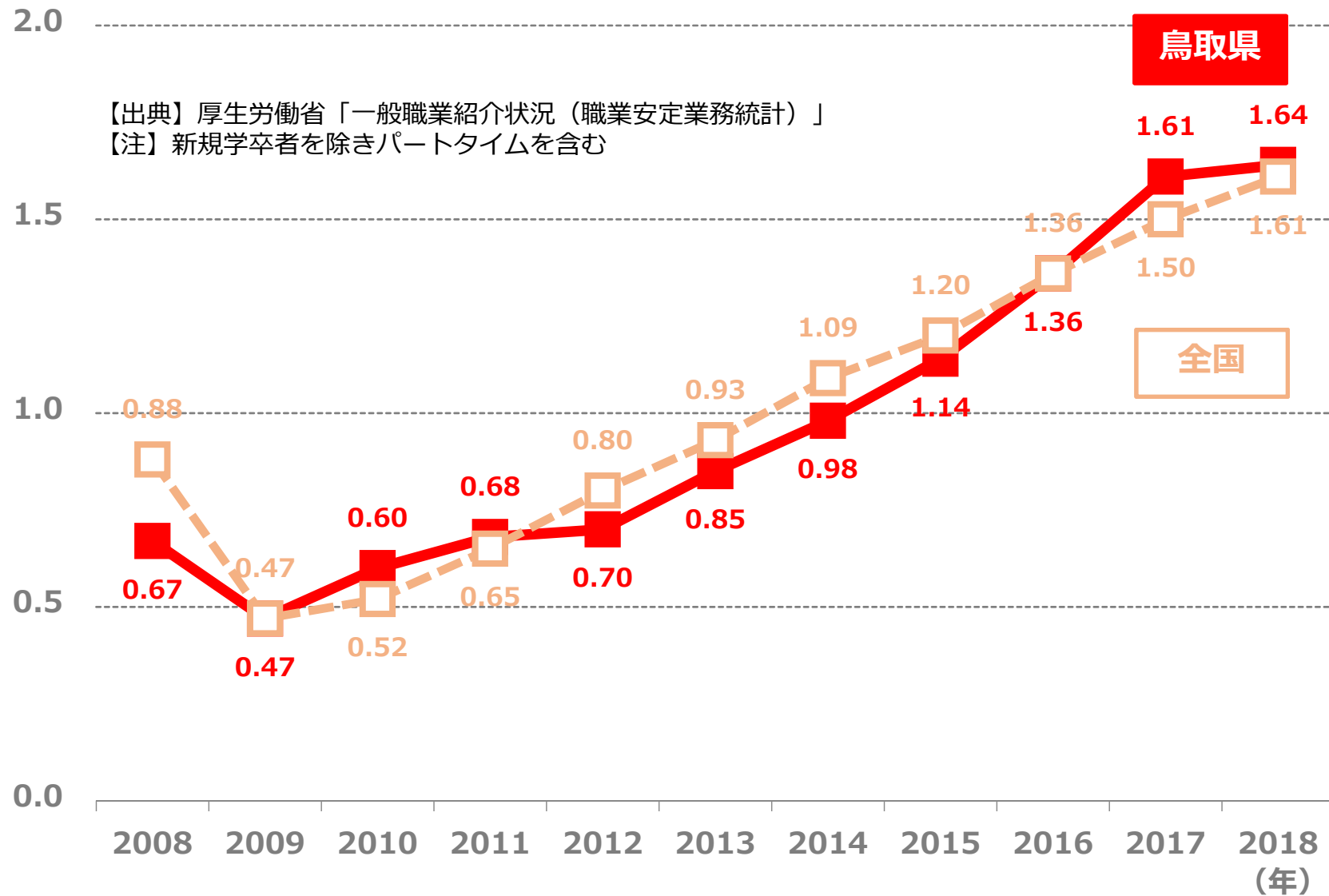
農業産出額の推移

2014（H26）年まで減少傾向が続いていましたが、その後はV字回復を果たし、引き続き好調を維持しています。



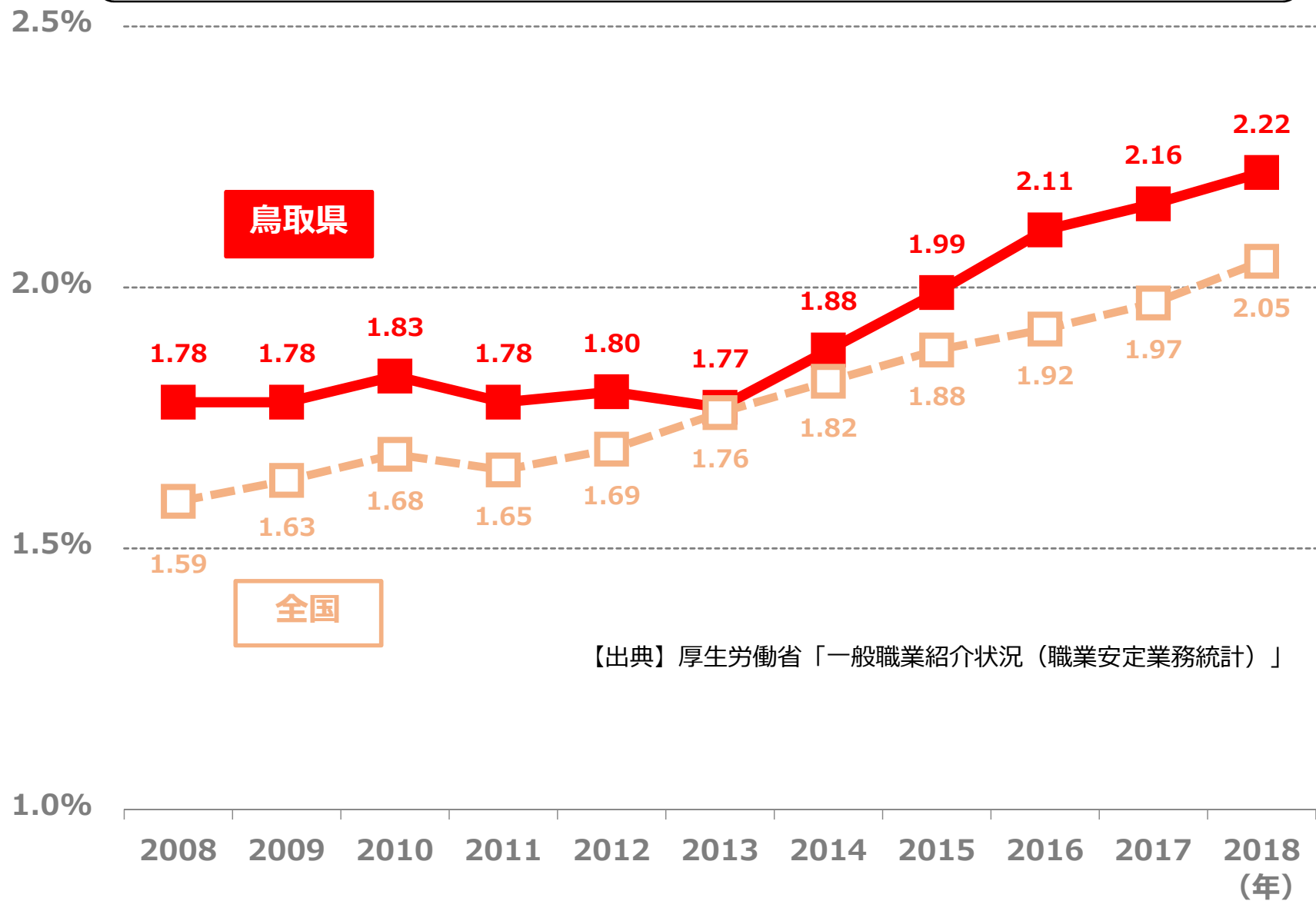
有効求人倍率の推移

2012（H24）年以降、全国平均を若干下回る状態が続いていましたが、近年は全国平均を上回る倍率で推移しています。



障がい者実雇用率の推移

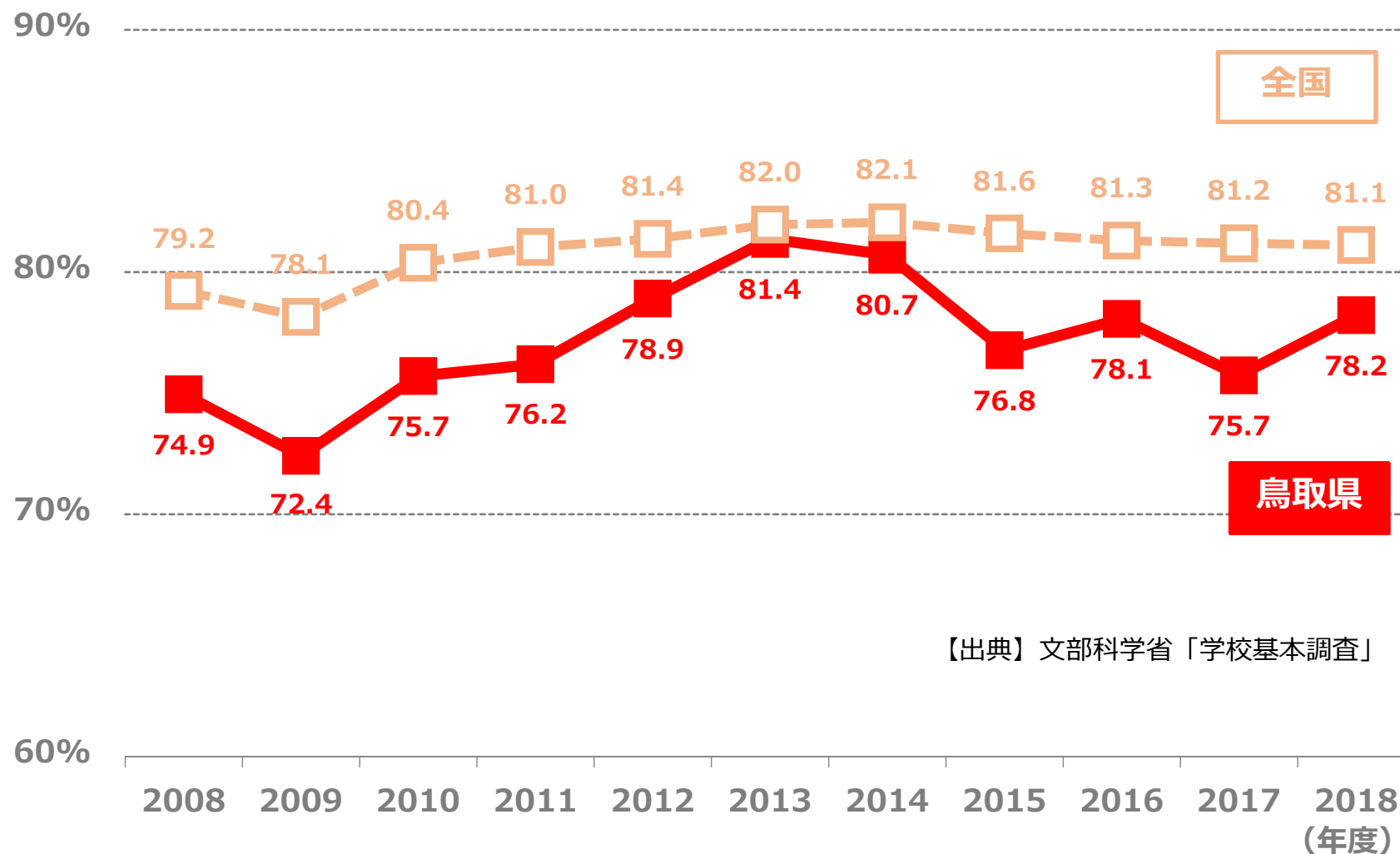
2008（H20）年以降、全国平均よりも高い水準を維持しています。



【出典】厚生労働省「一般職業紹介状況（職業安定業務統計）」

高校生の県内就職率の推移

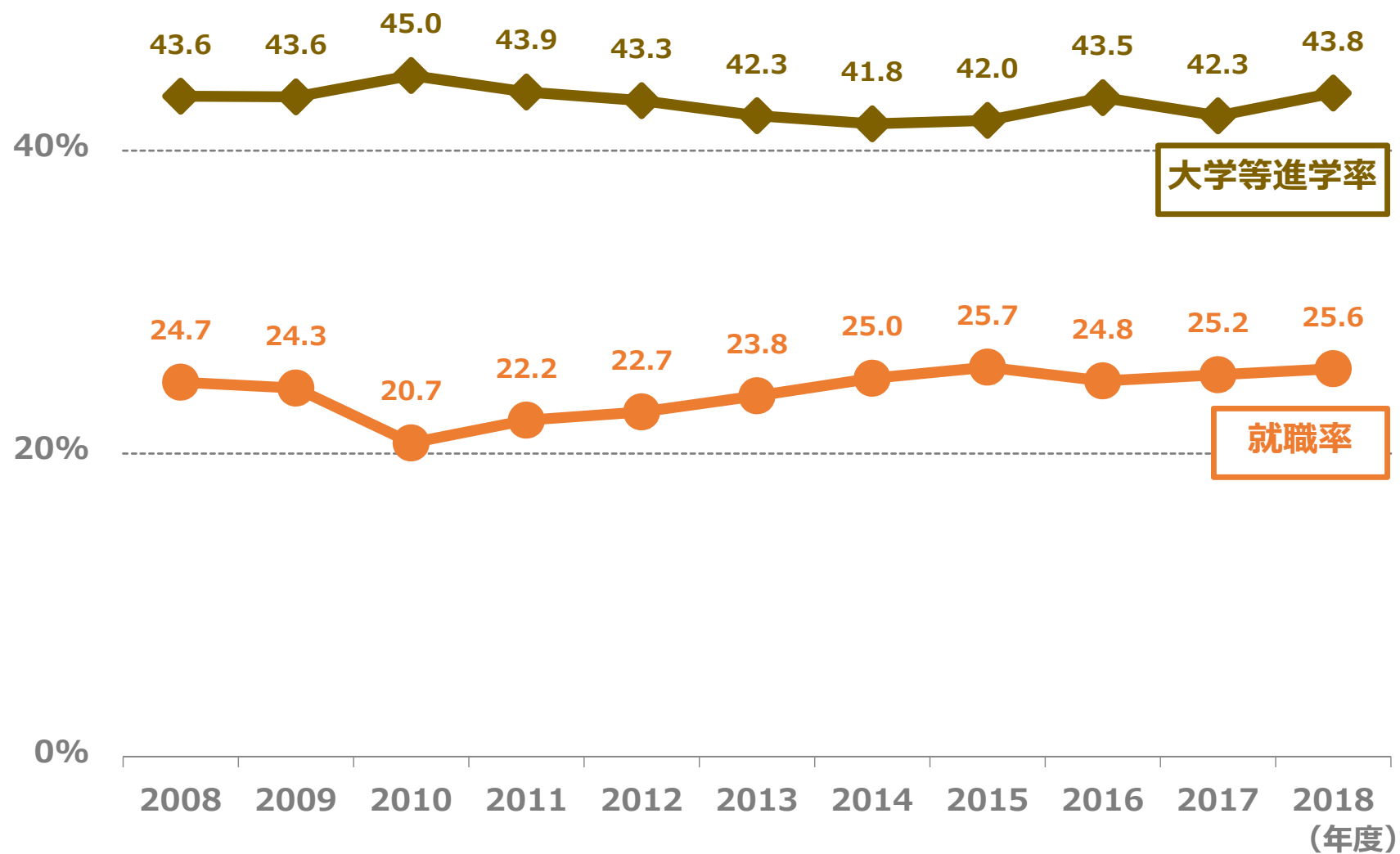
2008（H20）年度以降、全国平均よりもやや低い率で推移しています。



【出典】文部科学省「学校基本調査」

県内高等学校の進路状況

大学等進学率・就職率ともに2008（H20）年度から横ばいの状態が続いています。



県内の空き家数・空き家率の推移

空き家率は、空き家数の増加に伴い上昇を続けていましたが、2013（H25）年から減少に転じ、2018（H30）年には再び増加しました。

